

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	KID ACADEMY 伏見桃山校		
○保護者評価実施期間	R7年 12月 15日	~	R8年 2月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	41	(回答者数)
○従業者評価実施期間	R7年 12月 15日	~	R8年 1月 5日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 2月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	脳科学の視点に基づいた根拠ある支援を強みとしています。 一人ひとりの発達特性を丁寧に捉え、目的を明確にしたうえで意図をもって支援を行います。 お子さまの持つ力を引き出し、将来を見据えた成長をサポートします。	本社研修に加え、毎月のマンスリーレポートのテーマに沿った社内研修を実施しています。 支援方針の共有と明確化を図り、職員全員が同じ方向性で質の高い支援を行える体制を整えています。	お子さま一人ひとりの近況を全職員が共有できるよう、風通しのよい職場環境づくりに努めています。 また、毎日の終礼でその日の様子を振り返り、気づきや課題を共有することで、翌日の支援に活かしています。
2	個別・2対1・集団（3名以上）といった複数のカリキュラム体制を整えています。 お子さまのその日の様子やニーズに合わせて支援方法を柔軟に組み立て、一人ひとりに最適な支援を提供できることが強みです。	一人ひとりに個別の幼稚機を用意し、成長に合わせて高さを調整しています。 姿勢を安定させ、机上活動に集中して取り組める環境づくりを大切にしています。	低年齢のお子さまや、活動への参加が難しいお子さまにも無理なく取り組めるよう、カリキュラム内容のさらなる充実を図っていきたいと考えています。 また、一人ひとりの発達段階に応じた支援の幅を広げていきたいと考えています。
3	就学を見据えた活動プログラムを提供し、子どもが安心して次のステージへ移行できるよう支援しています。	年長児に対して、就学に向けた取り組みを意識したプログラムを準備し、曜日を決めて継続的に実施しています。小学校進学に向けて子どもたちが自信をもって次の環境へ進めるよう支援しています。	できる限り集団（3名以上）での経験を増やし、小学校生活に向けた力を育むとともに、進学への不安を少しでも和らげられるよう取り組んでいきます。 子ども一人ひとりのニーズを丁寧に捉え、それぞれに合った支援を行ってまいります。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	粗大運動に関する活動内容の幅が限られており、より多様な運動経験を提供する点に課題があると考えています。	粗大運動用の器具や設備が十分に整備されていないため、支援内容が人との関わりを通して運動活動に偏りやすく、活動のバリエーションに限りが生じていることが課題です。 一方で、器具に頼るだけでなく、脳科学や発達の視点に基づき、感覚統合や身体認知を促す関わりを重視した支援を充実させることで、子どもの運動機能や自己調整力の向上につながるアプローチを強化していきたいと考えています。	限られた環境の中でも粗大運動を促進できるよう、サークル遊びや感覚遊び、姿勢・バランスを意識した活動を取り入れ、脳科学・発達支援の観点から運動機能へのアプローチを強化していきます。 さらに、集団活動の中での運動経験を増やし、社会性や自己調整力の向上にもつながる支援を目指します。
2	支援提供時間が限られていることや送迎スケジュールの都合から、外出に必要な移動時間を十分に確保することが難しく、野外活動を計画的に取り入れにくい点が課題となっています。	利用時間が限られていることから、移動や安全確保に必要な時間を十分に確保しにくく、野外活動を計画的に取り入れることが難しい状況があります。	今後は、地域のイベントや近隣資源の活用を積極的に検討し、野外活動の機会を確保できるよう工夫していきます。 また、平日の利用時間内では実施が難しい活動については、土曜日等を活用することで、無理のない形で野外活動を取り入れていく方向で検討しています。
3	排泄場所が支援室の外（共用部）にあることから、排泄支援時に移動が必要となり、子どもへの見守りや支援の継続性に課題が生じている。	当事業所はビルの1階部分に開設しているため、建物構造上、排泄環境に関する課題の要因をすぐに緩和することができ難しい状況にあります。	排泄支援時の移動が必要であるため、職員の見守り体制や連携を強化し、安全に配慮した支援を徹底していきます。 事故防止の観点から、導線の確認や支援手順の共有を行い、安心して排泄支援ができる環境づくりに努めてまいります。